Taiwan's gift to the world（台湾から世界への贈り物）

写真家、旅行作家　小林賢伍

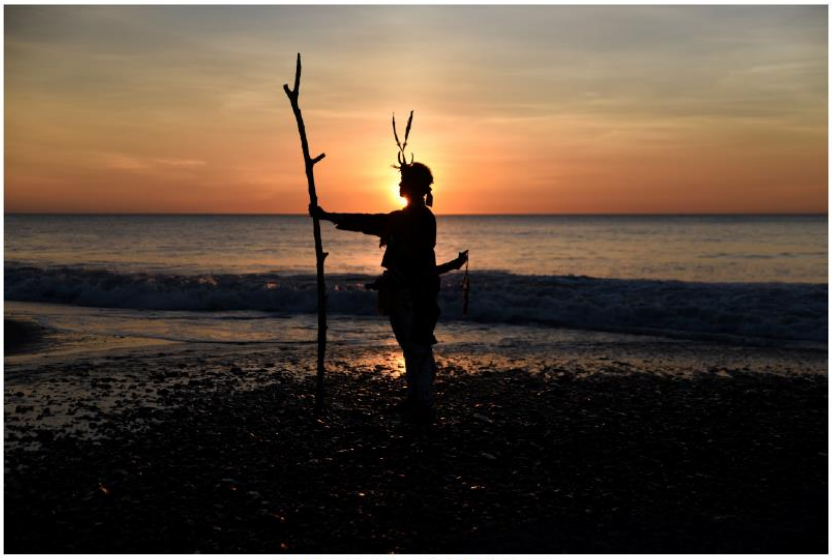
皆様は、台湾原住民をご存知でしょうか。

東京で育った私は、大学卒業後、都心の観光地や商業施設で勤務をしていました。毎朝同様の時間に起きて、満員電車に乗りながら、いつも同じ風景の中で暮らす。慣れてくると、そんな生活も悪くない。そうして、5年間が経過した頃、旅先で台湾の原住民に出会いました。それまでは、時間の許す限り、世界各国へ世界遺産を撮影記録することに明け暮れていましたが、彼等と対面し、荘厳で色彩豊かな服飾と透明感ある歌声に心を打たれました。日本の隣国にこれ程まで想像しなかった世界がある。まるで、今に生きる文化遺産を目の当たりにしたようなあの衝撃は、私に台湾へ渡る決断をさせました。

台湾原住民の歴史を学習してまもなく、過去の惨劇は文字からも私の感情を揺さぶりました。まずは、日本統治時代（以下、日本時代に省略）です。日本時代は、日清戦争の結果、下関条約によって台湾の統治が中国から日本に移った1895年4月17日から第2次世界大戦における日の降伏（1945年10月25日）までの期間です。

文化と信仰の衝突という視点で描いた映画『セデック・バレ』にある1930年に起きた「霧社事件」など、私達の祖先とも深く関わりがあった事実をそこで学びました。一時、過去の資料を見ることに足踏みすることもありましたが、再び、彼等に目を覚まさせてもらったのです。

それは、日本時代を生きた原住民の老人の言葉です。「あの頃の日本の人は真面目で、怖かったけれど、私たちに教育を与えて、交通状況を整えてくれた。今、一番訪れたい場所は、日本です。学校の先生が聞いていた日本語の歌は今でも忘れられない。」と、九州にいる日本人の友人から届いたという多くの手紙を見せてもらいました。



朝日に照らされる台湾原住民の姿

そうして、多くの台湾原住民と会話を重ねていく中で、私たちの祖先が台湾で暮らしたあの時代は、何も悲劇だけではないと、悲観的な先入観が薄れてきたのです。

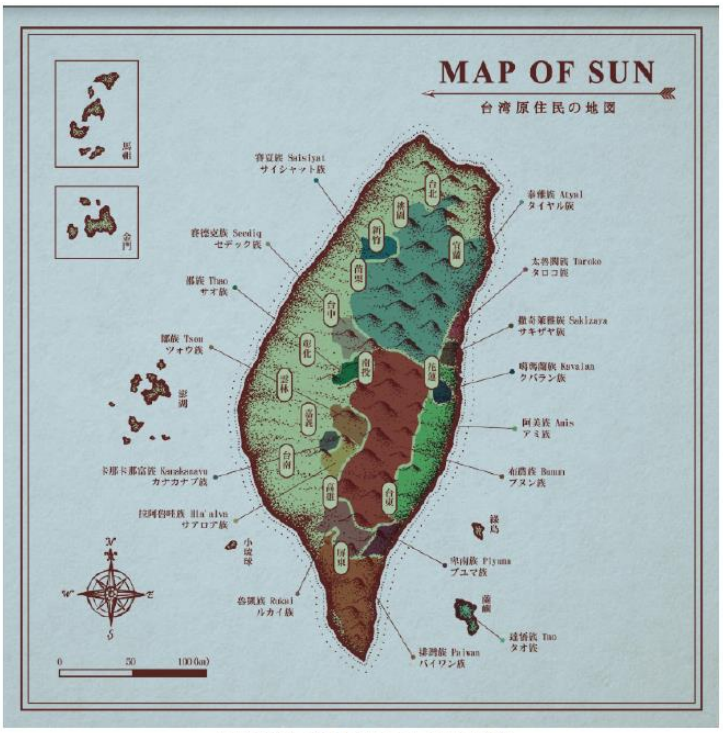
台湾原住民は、目まぐるしく流れる時代の中で、常に自然と共生し、生態系にも敬意を払っています。また、祖父、祖母、父、母、祖先から代々言い伝えられるものを途切れさせません。時に、太陽の子と呼ばれる原住民の子はそれを受け取り、また、家族、友人、部落、土地、自然を愛する力を養います。大海原と高山に囲まれた原住民の部落で彼らと暮らしながら、撮影を交えて出逢った世界をご紹介します。

台湾の原住民族（英語：Indigenous Taiwanese・Taiwanese aborigine）は、遅くとも 17 世紀には現在の台湾に定居。2021 年 5 月現在、台湾政府が正式認定するのは、合計 16 民族です。台湾総人口約 2300 万人に対し、原住民の人口は約 56 万人。よって、総人口の約 2%しかいません。

しかし、実際は、都市台北の暮らしでも、時折、原住民の伝統工芸を専門に取り扱う店舗や、原住民が好む噛みタバコ「ビンロウ」（華語：檳榔／学名：Areca catechu）などが、目に止まります。日本人にとって、民族文化への馴染みは多少薄いですが、台湾の原住民族は、歌声、運動神経が優れている傾向があり、国を代表するスポーツ選手をはじめ、歌手など、多くの分野でその個性を発揮しています。人口の少なさを感じさせることはありません。かつて、日本でブラックビスケッツとしてデビューしたビビアン・スーの母親もタイヤル族です。

台湾政府は日本時代、原住民族を 9 つの民族に分類しました。それぞれはアミ族、タイヤル族、サイシャット族、ブヌン族、ツォウ族、ルカイ族、

（* 注）台湾原住民の分布地図作成：蕭子強・小林賢伍



台湾原住民 16 民族の分布地図（* 注）

パイワン族、プユマ族とタオ族。国家が民族の自決権を尊重し、2001年以来、台湾政府は徐々に民族の認定を行いました。よって、公的に認められた民族の数は増加傾向にあります。

彼等は、それぞれ異なる文化と言語を持ち、総体的にオーストロネシア語族（マレー・ポリネシア語族）に属する諸言語を話します。しかしながら、部落を訪れると、この文字のない言語は時代と共に失われつつあると、皆口を揃えて言います。

台湾の原住民族はもともと東南アジア方面から渡ってきた民族であろうとする説もあります。しかし、台湾の原住民諸語がオーストロネシア語族の祖形を保持しており、考古学的にも新石器文化は台湾からフィリピン、インドネシア方面へ拡大しています。よって、オーストロネシア語族は台湾から南下し、太平洋各地に拡散したとする説が有力です。

以前、マレーシアのコタキナバル島の山脈を訪れた時、マリマリ部落と書かれた看板がありました。「マリマリ」は、台湾原住民のパイワン族の言葉で「ありがとう」を指す意味です。また、台湾東部の台東にある離島、蘭嶼に住むタオ族とフィリピン北部の原住民は、互いの母語を用いて通訳無しで会話ができるといいます。

アメリカの進化生物学者 Jared M. Diamond は定期刊行物の「Nature（自然）」で「Taiwan's gift to the world（台湾から世界への贈り物）」を掲載しました。台湾の原住民族言語、農業技術及び製陶技術が遠く海を渡り伝授することは、人類発展において重要なプレゼントになると述べたのです。このフレーズは、私にとって、非常に印象深いものになりました。何故ならば、私も実際に、台湾原住民を通して、自然環境や景観保護について考える機会を頂いたからです。台湾原住民が重視する自然との共生、その知恵と心得は、近年、世界に賞賛されています。

今回の記事では、台湾原住民の中から３つの民族を紹介します。台湾原住民で最も人口が多く母系社会、女性優先の「アミ族」、標高500mから3000m辺りと山間いで暮らす「ブヌン族」、蛇の百歩蛇を神様と崇め、貴族制度を用いる「パイワン族」です。

アミ族・Pangcah（Amis）／2021年3月31日現在の人口215,528人

私が、初めて出逢った台湾原住民であるアミ族。台湾原住民総人口の37.5％を占め、国内だけならず、最も知名度がある台湾の原住民族と言えます。

居住地は、東台湾の花蓮県、台東県、屏東県と広い範囲をカバーしています。家族の仕事は、女性主体で、母系相続を行うため、家業、財産は長女が受け継ぎます。アミ族の別名であるパンツァハは、「人間」「仲間」の意味を持つそうです。

アミ族は、歌をこよなく愛する民族で、年に数回開催される収穫祭などの祭典では、お酒に加えて歌と踊りが付き物。「ビールは水だ。」と言う逞しい彼等、原住民とお酒を飲む機会があれば、覚悟しましょう。（私は、お酒が苦手です。）

1996年アトランタオリンピックの開会式で舞台に上がった台湾原住民の「老人飲食歌」は、その時代に大きな印象を与えたそうです。アミ族の音楽は、民族だけでなく、台湾にとって実に重要な文化資産であることは言うまでもありません。

私が、台湾に住んで間もない頃、花蓮県主催の収穫祭に参加しました。そこでは、日本時代を過ごした年配の方々が流暢な日本語で部落の名産を説明し、彼らが纏う服飾は、当時、意味を理解していなかった私にとっても、息をのむ色彩でした。

アミ族は、赤色の伝統的な服飾、羽の冠、花の冠、肩帯に付いた円形の貝殻、腰帯に付いた鈴などが特徴です。北アミ族、南アミ族と、色合いや服飾は大きく異なりますが、共通点として、全て母親である太陽を象徴しています。

子供の晴れ舞台を見守るアミ族の親たちの姿

台湾東部の花蓮に、最も原住民的な特色を備える野菜の宝庫と言われている、太巴塱部落（Tafalong）があります。ここは、アミ族の文化が花開いた一つの重要な場所と言われています。

馬太鞍川が光復川と交わる南側、大きな平原の上で、部族の人たちは赤もち米を復元、栽培しました。赤もち米は赤宝石のように部族の伝統文化の重要な作物です。水稲、ゼンテイカ、篠竹、黄藤の柔らかい茎、黒もち米も豊富で、現地の方が実際に目の前で餅を搗いてくれました。その時に、日本語の歌を歌いながら叩く姿に、その空間と自分の距離が近付いたような気持ちになったことを覚えています。

太巴塱部落には悠久の歴史を持つアミ陶器、木彫り、竹細工、手織りの布、伝統の手工芸品など、多くの場所で見ることができました。

部落の老人に日本人音楽学者、黒澤隆朝（1895~1987）の言い伝えを聞きました。黒澤隆朝は、アミ族の始祖伝説として以下の記録を残したそうです。

「太古、南方にあったラガサンという大陸が天変地異により水中に沈んだ。その時、臼に乗り、辛くも逃れた男女が海流に乗り北上し、台湾に辿りついた。二人はその地に暮らし結婚、子孫繁栄を叶えた。その後、『我々は北に来た』ことから、アミ族語で北を意味する“アミ”を民族名にした。」

現在、複数の諸説があり、正しい見解はないそうですが、日本時代に起きた出来事や物語は、台湾原住民の歴史を語る上で語り継がれています。

パイワン族・Payuan（Paiwan）／2021年3月31日現在の人口103,840人

各民族の中でも、一際荘厳な服飾を纏う、パイワン族。主に南中央山脈に暮らしています。彼らはピラミッド型の貴族制度を用いています。そして、パイワン族の貴族は、日常の生活労働に参加する義務はなく、工芸創作を嗜む時間と傾向があります。こうして、誕生した精巧な彫刻、装飾工芸は、現代の彼等においても、突出した個性です。

社会組織は、貴族・士・村民の３つ階級があります。貴族は、必ず、農地と住宅を持ちます。また、土地税、狩り税、山林税、水源税など、税金を取る権利があり、住宅は大きく、門には、蛇、鹿などが飾られます。士は、貴族に社会制度が似ていますが、入墨の柄、名前が異なります。村民は、自分で生活の必要品を稼ぐ、個人の努力で戦争、狩り、彫刻などのアプローチで個人の社会地位を上げるなど、各階級によって、大きく異なります。2016年に部落を訪れた際、私は、ご縁があり、部落の頭目の家に滞在させていただきました。そして、私が台湾に残る決意をした地が、ここパイワン族の大鳥部落です。ご馳走のカエル、飼育中の豚やアラーム代わりの鶏、穴を掘った自家製トイレと突然現れる蛇、ここで過ごした時間は、忘れることができません。

台湾東南部に位置する大鳥部落は、東部にあるパイワン族の中で最も人口が多い部落です。入り口には、大きな彫刻があり、１つの街のように感じました。部落の前には、太平洋が広がり、後ろには南大武山があります。住民も海の文化を心にもち、皆が楽観的で明るく、大海のように寛大でした。部落内ですれ違う全ての人が家族である、

そんな、常に他を想い、誰かに守られている安心感があると言えます。

部落の中には、一部作業中の見学が可能な工芸品を販売する店舗があります。そこの方が、大鳥部落の服飾に関して特徴を教えてくれました。「ここでは、黒、赤、黄などのパイワン族服飾の基本的な配色も同様に多様化していません。大鳥部族は、地理環境と歴史上に起きた変化と共に、新たな多元文化を吸収し、パイワン族の中でも自己の色を出しています。服飾の主色は大空と大海の青色を使用しています。」

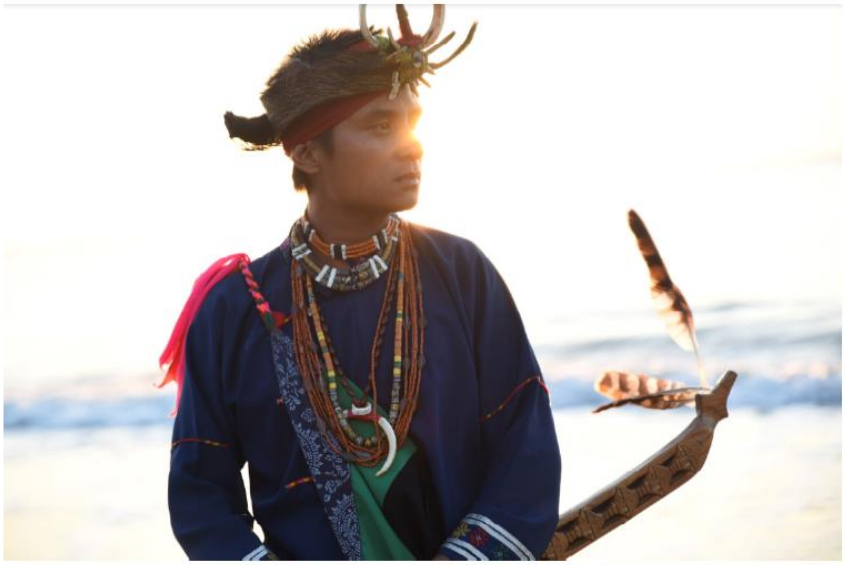
青空が伝統の羽織物を一層引き立て、とても眩くて華美です。朝日上がる東台湾の美しい日光の大地にもよく合いました。

大鳥部落から近い、拉勞蘭部落、Lalauran の青年団が、毎夏、屏東と台東にある友好部族と互いの収穫祭に招待し合うと聞き、同行しました。これは、彼らが異なる部落に暮らすものの、同じ祖先を持つパイワン族として絆を深める為の時間です。

青年達は収穫祭の際、お祝いの贈り物（コンビニなどで購入可能な飲食物）を屏東県春日郷七佳村 Mamazangiljan（パイワン族の言葉で伝統持つ指導者の意味）の家に送り届けます。中でも、撮影する上で特に印象に残った、頭の飾りについて記録しました。

訪問した異なる部落の長に挨拶し、手を繋いで歌う青年達の姿

これは、「七里香：シチリコウ」、台湾の原生植物です。普段お酒を醸造する前に、七里香の葉は酒がめに清潔用の材料として用いられ、醸造の過



台湾東部の台東にある大鳥部落パイワン族の服飾

「香りが七里先まで届く」と言われる植物・七里香を頭に飾る青年達

程において重要な役割を果たします。「失敗を払い退ける意味もあり、七里香を燃やした後に煙が空へ昇っていき、先祖をつなぐ架け橋となる。邪気払いや魔除けの効力も信じられている。」と青年が教えてくれました。そのため、拉労蘭部族の青年は他の部落を訪問する時、みな七里香を身に付けており、七里香は青年たちの無事を守護するよう祈ります。同時に、「全てのものには意味があり、それらを理解することがとても重要である。」と学びました。

東部に暮らす彼等が、南部のパイワン族の部落をまわる挨拶の仕方は、とても興味深いものでした。まずは、リーダーとなる、頭目の家を尋ねます。飲料などを届け、挨拶と顔合わせをした後、家の前で手を繋ぎ、部落毎の舞いを見せます。円陣を組み、パイワン語で歌い、ゆっくりと見えない何かが、意思の疎通を測るかのような空間が生まれます。「収穫祭は間も無くやってくる。私達は新しい年に入るため、部族の人々は互いに集まる時間を大切にし、団結しなければならない。」これは、彼らが歌う意味です。

ブヌン族・Bunun ／ 2021 年 3 月 31 日現在の人口 60,119 人

私が最も多く訪れた民族である、ブヌン族。彼等は主に中央山脈の東側に暮らしています。人口の約半数が 500m から 1500m の山間に暮らし、各部落までの交通は便利ではありませんが、自然に限りなく近い民族です。

ブヌン族は、家庭、家族、敬老に対する想い、重要性が他民族より、大きな意味合いを持ちます。よって、彼らは、大家族制度、及び、敬老制度を用いています。狩りの逞しさは、民族間でも恐れられ、狩った動物の骨を家や隣の木にかけ、部落内で見せつけ合います。私も幾つかの部落を訪れる度に、山の豚や、鹿の骨が並び、多少の威圧感を覚えます。彼等は、血縁関係から、お互いを認識し、アミ族の母系社会とは異なる父系社会です。また、老人が絶対の権利を持ちます。

以前は、氏族制度があり、部落外との結婚が厳しく制限されていたそうです。私のブヌン族の友人は、幼少期の頃、部落以外の友人を家に連れてきたとき、祖父母が彼らとの関わりを許可しないかったと思い出を話してくれました。これは、彼らにとって、名が持つ重要性と血縁で発展していた背景が影響していると言えます。

ブヌン族の伝統的な思考が「泛霊信仰：アニミズム」です。人には、二つの霊魂があり、一つは左の肩。もう一つは右肩。この異なる二つの魂が独立した意思を持つと考えられており、人の行動を決める。左肩は、乱暴、貪欲。右肩には、友情、寛大などの意思が宿ります。これらは、敬老制度

台湾東部の台東にある初來部落ブヌン族の青年と稲田

円陣を組み、パシププを披露する台湾原住民ブヌン族

の布農を尊重するように父親から受け継がれると信じられています。

台湾東部の台東、海端郷にある初來部落（Sulaiiaz）はブヌン族の小さな部落の一つです。日本時代後半、部落付近から集まったブヌン族が創立。当時、この地には、多くの榕樹があり、ブヌン族語で榕樹を意味する Gulaiath にちなんで、「初來」と命名したと現地の長老が教えてくれました。

毎年 11 月―12 月頃、彼等は栗の豊作を祈り、種を撒き、祭りを催します。1 月―3 月頃になると、村の男陣が輪を作り、栗豊作祈願の唄をうたいます。これが世界にも注目される八部合音です。ブヌン語では、「パシププ」と呼ばれます。歌声の良し悪しは豊作物の豊作か凶作に関わるとされ、重要且つ尊く、天に捧げる声です。実際に、彼等と共に歌う機会を頂いた際、多くの発見がありました。

まず、「耳で聞いて歌う」意識です。これは、相手の声を聞いて、異なる音を発する為に必要な思考です。一人の綺麗な声が、重要なわけではない。そして、それら相手を重んじる気持ちが結晶となり、神秘的な音を奏でます。

花蓮県政府文化局は 2015 年、同県卓渓郷に住む台湾原住民ブヌン族に伝わる伝統的八部合唱パシププを県の文化資産に登録しました。

特に注目すべきは、彼らの生態保護に対する考え方です。祭儀のときだけは、指定された数の動物（射耳祭／50 頭）を狩ることが許可されます。基本概念として、彼らは、動物の無駄な殺生はしません。また、華語では「剛剛好」、日本語では「ちょうどいい」と言う単語をよく使います。これは、「一回の食事に対して必要な分だけを狩る」と言う現代が忘れている大自然への敬意なのです。

山林を駆け抜ける、果敢なブヌン族です。自然の恵みへの敬意は特に強いと言い切れます。彼ら

射耳祭後、部落の人へお肉を配る為、大人数でお肉を切る作業風景

にとって、全ての植物は命であり、贅沢なご馳走は自然への感謝が詰まっています。以前、彼らが、狩りで自給自走の生活をしていた頃、山に入る部落の者たちは、まず、祖先に感謝することから始まりました。

部落の長と、部落の人々から「獣道」と呼ばれる以前狩りをしていた山を散策しました。その際に、まず、入口にて、お酒を大地に巻き、ブヌン族語で祖先と大地に挨拶をしていました。同時に、「供え物は、水でも良い。重要なのは、気持ちだ。」と教えてくれました。動物を狩るのは、毒性の植物を弓矢に塗る他、石製の罠も使用します。収穫祭などの期間を通して、青年たちに弓矢を教えていますが、実際の狩りでは、銃を使用していました。

まとめ

台湾原住民は、今や台湾にとって民族文化の保存補完だけでなく、自然環境への見直し、及び、観光産業に彩りを加える一つの大切な柱です。これまで、約50を超える部落を訪問しましたが、唯一共通して言えるのは、「人と人との距離感」です。都市で暮らす私たちは、生活上、常に大勢の人に囲まれています。しかし、現代に置いては、赤の他人、或いは隣人でさえ、警戒すべき存在となっていることはないでしょうか。山岳にある部落によっては、時に、電波がない場所に家があります。食料の調達、また、隣人に会うためには、車と長距離移動が必要不可欠であることは、稀ではありません。しかしながら、台湾原住民は「祖先が同じならば皆家族」という概念を持っています。阿里山の部落では、悪天候に関係なく、毎日、若者が調理・配達の手分けをして、行動が不自由な各老人の家に食事を送り届けます。このようにして、一生を助け合い、都市で暮らす私たちよりも友人が近くにいるのです。

近年、世界情勢は常に緊迫し、争いが絶えません。そうした時代に台湾原住民の心は、年々価値が高まることは間違いありません。まさに、Taiwan's gift to the world（台湾から世界への贈り物）なのです。

小林賢伍 | KENGO KOBAYASHI
1989年生まれ。写真家・旅行作家。スポンサーは、Nikon-Taiwan。駒場学園高等学校の食物調理科にて調理師免許を取得後、国内外にて独学で写真を学ぶ。現在25カ国を撮影。2016年、台湾の原住民族の文化に関心を持ち、移住を決意。宜蘭県「抹茶山」の命名や、旅行番組の司会者などを経て、「Art Revolution Taipei 台北新藝術博覧会」の百大名人に3年間選出された。2020年交通部観光局、阿里山国家風景区管理所の広告「神話の大地」にて、イメージキャラクター及びナレーションを務めたほか、翌年出版した「風起臺灣（風立ちぬ台湾）/ Be Sky Taiwan」は、台湾の蔡英文総統に紹介された。

Instagram　Facebook